

「いつも見守ってくれてありがとう」

藤本 晴生

ぼくには、思い出したくないことがあります。それは、七月

上旬に起きた、西日本豪雨です。その夜、すこく、こわくて、ねむれませんでした。朝起きて、テレビを見ると、広島県坂町や熊野町が土砂で、うまつたり、人がゆくえ不明になっていました。ぼくの団地も土砂が道をおおい、大変なことになっていま

した。土砂がいっぱい、びっくりしました。ぼくは友達と、ボランティアをして、団地の土砂を取りました。水をふくんだ土は、重たくてたいへんでした。山陽本線や新幹線が、動かなくなったり、学校がお休みになったり、いろんなイベントがなくなったりして、ぼくは、

「自然は、すこくこわいな。」
と言いました。

熊野のおばあちゃんから、

「お墓が大変なことになっている。」

と、泣きながら、電話がありました。

ぼく達家族は急いで熊野に向かい、お墓に行くのとたくさんあつたお墓が、すべて土砂にのみこまれていて、すこくびっくりしました。大きな石がころがっていて、山の木がすべてなくなっていました。ひいばあちゃんといちちゃんのお墓の近くは、土がかぶって、すこく大きな石がありました。そばで、掘っている

おじさんが、お墓の地図を見せてくれて、

「だいたいどこにお墓がありましたか。」

と言われ、ひいばあちゃんといちちゃんのお墓のだいたいの位置がわかりました。

お墓から少し下ると、人の家があります。お墓のところで土砂はとまり、民家や道路は、大丈夫でした。おばあちゃんの家も、大丈夫でした。ぼくは、きつとひいばあちゃんといちちゃんが、守ってくれたのだと思います。ひいばあちゃんには、赤ちゃんの時、たくさんやさしくだっこをしてもらってうれしかったし、ぼくが小さい時から、いつもおいしいごはんを作ってくれて、いました。

「今ごろの小学生はたいへんじゃねえり。がんばりさいよ。」
といつも言っていました。

ぼくと、弟と、いとこと、ある日、お墓を掘りました。お墓の土台の大体が出てきて、うれしかったです。これから、みんなで、こつこつ掘ってひいばあちゃんと、おじいちゃんを見つけ出したいです。

ひいばあちゃんといちちゃん、ぼくたちをいつも見守っていてくれて、

「ありがとう。」